

研修報告書No. 5

研修先 本山町立国民健康保険病院嶺北中央病院
 いの町立国民健康保険長沢診療所
 大川村国民健康保険小松診療所
所 属 昭和大学横浜市北部病院 研修医

首都圏で初期研修をしている私にとって、地域医療の研修の1か月間は普段では体験することのできない多くのことを経験できた有意義な1か月間であった。

研修期間中は主に内科医の先生方に指導していただいた。嶺北中央病院の内科医の先生方は若い時から多くの経験を積んでいて、様々な分野の知識や技術を持っていることに感銘を受ける日々であった。未熟な研修医にも一対一で手技の指導や臨床の知識を教えていただき大変勉強になった。

病院ではコメディカルの方と接する機会もあった。高齢者の方への関わり方の面で教わるが多かった。また、医療を実践する上で医師の仕事以外をコメディカルの方に一任するのではなく、お互いに情報を共有し合うことが大切であることを学んだ。

地域医療の現場を目にして驚くことがたくさんあったが、1番は患者が75歳以上の後期高齢者ばかりであったことである。確かに山間部では過疎化、高齢化が進んでいるという話は有名ではあるが、実際に現場を見て改めて地域医療、高齢化社会の医療の問題点を認識することができた。

●診療所、訪問診療

山間部は交通の便が悪く、通院が大変な方も多くいる。そんな患者にとって欠かせないのが出張診療所や訪問診療である。嶺北地域の医療を担っている嶺北中央病院からも先生方、看護師さん達が分担し、病院での忙しい時間の合間をぬって診療所や訪問診療の仕事を行っていた。診察時間よりも往復時間の方が長いということも多々あったが、できるだけ多くの人に医療を提供しようと試行錯誤しているスタッフの方々の思いを感じることができた。

●老老介護

高齢化が進んでいるため、介護する方も高齢であり自宅での生活が困難な人も多くいた。この病院ではソーシャルワーカーの方が早期より介入し、訪問診療、デイケア、老人介護施設への入所など社会福祉の手続きを進めていた。多くの職種の方の協力で医療は成り立っていることを実感できた。

上記に挙げたことは、日本全体の問題であり、今後付き合っていかなければならない課題である。今回の研修は自分にとって地域医療について見直す良い機会となった。というのも、自分の出身地は長野県であり、高知県と同じく山間部の地域が多い県である。大学で東京に出てきてから長野県の医療から離れてしまったが、これを機に長野県の医

療についても関心を持っていこうと思った。そのうえで残りの研修期間で将来の自分の目標、やりたい医療について熟考したいと思う。

私が高知を選んだ理由は、自分の大学の研修センターの方に「高知がおすすめです。」と言われたからである。実際に自分が研修を終えて、研修センターの方の言葉を信じて良かったと思っている。普段の研修が充実していたのはもちろん、土日休みをいただき、四国各地を巡ることができたのも高い満足度につながっている。車の運転に自信にない私であったが、公共交通機関を有効活用し毎週末楽しく旅行できた。また、地域の公民館で認知症についての話をする機会もいただき、貴重な経験をすることができた。

最後になりましたが、迷惑を多くかけてしまったにも関わらず優しく接していただいた先生・コメディカルの方々、充実した地域研修の手配をしてくださった高知医療再生機構の方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。